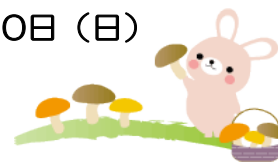




熊本市 感染症発生動向調査 速報



！ 伝染性紅斑(りんご病)が警報レベルになりました!!

熊本市の感染症発生動向調査(第45週)における定点医療機関あたりの患者報告数は、2.56人(定点数14ヶ所、患者報告数41人)となり、国が警報レベルの目安としている2人を超えました。伝染性紅斑は「りんご病」とも呼ばれ、幼児、学童の小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患ですが、成人の感染報告もあります。

◆**どんな病気？**◇**症状**…頬に境界鮮明な赤い発疹が現れ、続いて手足に網目状・レース状・環状などと表現される発疹がみられます。これらの発疹は1週間程度で消えていきますが、なかには長引いたり、一度消えた発疹が再び出現することがあります。成人では関節痛、頭痛などを起こすことがあります。一度感染すると終生免疫が得られますが、免疫不全の人は持続感染を起こす場合があります。◇**潜伏期間**…4～15日程度◇**感染経路**…飛沫感染、接触感染で、頬に発疹が出る7～10日前に、微熱やかぜ様症状がみられることが多く、この時期にウイルスの排泄量が多くなります。発疹が現れたときには、ウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼなくなっています。

◇**流行期**…一年中みられますが、流行した年の熊本市では秋から春にかけて増加する傾向にあり、前回は2015年に流行しています。

◆かかったらどうすればいいの？

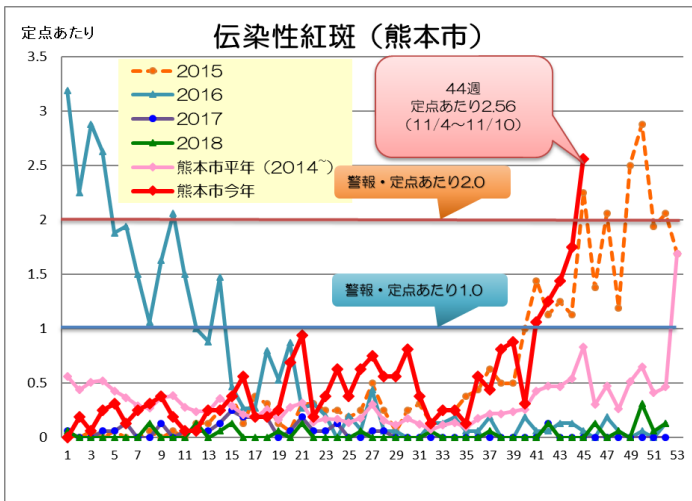
・特別な治療法はなく、対症療法となりますが、ほとんどの場合、合併症を起こすことなく自然に回復します。

・妊婦が初感染した場合に胎児の異常や流産が起こることがあります。

◆予防法は？

・現在のところワクチンはありません。・紅斑の時期にはほとんど感染力はなく、またウイルス血症期のかぜ様症状は特徴的な症状ではないため、実際的な予防策がありません。妊娠している女性は、流行期にはかぜ症状のある人に近づかないようにしましょう。

症状が似てるので、昔は風しんと思われていたらしいよ。



期 間		2019年 44週		2019年 45週	
		10/28～11/3		11/4～11/10 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ 流行入り	↑	20	0.80	39	1.56
RSウイルス感染症	↑	9	0.56	1	0.06
咽頭結膜熱(プール熱)	→	7	0.44	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	22	1.38	19	1.19
感染性胃腸炎 !	↑	102	6.38	88	5.50
水痘(みずぼうそう)	→	3	0.19	2	0.13
手足口病	→	7	0.44	8	0.50
伝染性紅斑(りんご病) 警報レベル	↑	28	1.75	41	2.56
突発性発しん	↑	4	0.25	8	0.50
ヘルパンギーナ	→	2	0.13	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎	→	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	↑	11	2.20	14	2.80
細菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	→	1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	↑	0	0.00	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	→	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	0	0.00	0	0.00